

図書館だより

目次

私と図書館、そして図書館への期待	1
図書館から見たジブリの世界	2~3
インフォメーション	4

私と図書館、そして図書館への期待

石隈利紀（大学院 心理学研究科長）



学校で勤める私にとって、図書館は、とても好きな場所です。最近が多忙を理由に行くことが少なくなっています。ラーニングcommons (Learning commons) が誕生したので、また活用したいと思います。今回は「図書館だより」に寄稿する機会をいただいたので、「私と図書館とのかかわり」とこれからの図書館への期待について書きます。

<20代と30代>

私は山口県生まれです。警察官をしていた父の転勤で16歳のときに光市に引っ越しました。自分の人生について迷っていた20代、光市の実家に帰省した私は市立図書館でぼんやりと時間を過ごしていたとき、「吉田松陰全集」を偶然目にしました。当時の自分と年齢があまり変わらない20代後半の松陰が「松下村塾」で、伊藤博文や高杉晋作と自由に議論する姿に、私は強く惹かれました。図書館の魅力に1つが、セレンディピティ (“serendipity” : 素敵な偶然) にあるのは、今も変わりません。

私は30代の後半は、アメリカのアラバマ大学大学院で学びました。私は大学のキャンパス内のアパートに住んでおり、教室も図書館も歩いて5分以内でした。図書館では、いかめしい装丁の心理学の古典で、スキナー (B.F. Skinner) やフロイト (S. Freud) などの考えに、わくわくしながら触れたのを覚えています。そして師匠であるカウフマン (A.S. Kaufman) や兄弟子らが発表したばかりの論文が掲載されている雑誌を、明日は私の論文が載ることを祈りながら手にしたものです。図書館には、先達から引き継がれた研究成果と仲間によって「たった今生産したばかりの」知的財産があります。

<東京成徳大学：60代>

私は2年少し前、60代の後半に入ったところ、良縁を得て東京成徳大学に赴任しました。大学の図書館で、「大草原の小さな家」 (“Little House on the Prairie”) のDVDを全巻見つけたときは感動しました。短期大学の幼児教育学科や子ども学部があるおかげかなと思いました。

私は応用心理学部臨床心理学科の1年生に「心理学概説」

「カウンセリング心理学」「心理学英語基礎」を教えてきました。前任校（筑波大学）では最近主に大学院生の授業・研究指導や附属学校の仕事をしていたので、18歳の大学1年生の授業は、私にとって新しいチャレンジでした。赴任する前の年から、「どうしたら心理学を楽しく、分かりやすく教えられるか」、「どうしたら心理学の英語を、英語が苦手な学生に教えられるか」について、考えました。そして再会したのが「大草原の小さな家」でした。舞台は1870年～1890年代の西部開拓時代のアメリカ、インガルズ一家（父、母、娘、養子の息子たち）の物語です。ドラマのシリーズは、1970年代から1980年代にかけて放映され大ヒットし、世界中（日本でも）放映されました。私は1980年代アメリカ留学中にこのドラマを見て英語を学習しました。このドラマで扱っているテーマは、養子、虐待、貧困など家族・子育ての問題への対応、視覚障害など障害への偏見や人種問題への対応、コミュニティでの相互支援などです。1870年代ころのアメリカの心や社会の問題が、2010年代のアメリカや日本の家族や学校の問題として私たちを脅かしていることにびっくりします。私は授業で使うドラマのエピソードのDVDを図書館のブースで視聴して、キーワードを書き移して準備しました。ドラマを見て、学生は心理学に関心をもってとりくみ、ディスカッションにも積極的に参加しました。図書館のおかげで、私の授業は活性化しました。

<これからの図書館へ期待>

図書館は、学生の読書センター、学習・情報センター、教職員の教育・研究サポートなどの機能があります。ラーニングcommonsにより、短期大学・各学部を超え様々な情報資源を用いて自学自習や議論ができる場を提供します。時代と空間を超えた情報を提供するラーニングcommonsと言語や文化を超えた交流を促進するグローバルラウンジ、この2つの場をつなぐような企画ができれば、東京成徳大学の魅力がさらに増すと思います。



図書館から見た ジブリの世界



『火垂るの墓』から考えること

子ども学部 子ども学科

学生の皆さんにはジブリ映画のファンが多くいると思います。ジブリ映画と言えば宮崎駿監督の作品が圧倒的に人気ですが、この度亡くなった高畑勲監督の『火垂るの墓』もアニメ史に残るジブリ映画の名作で、多くの方がご覧になったことがあるのではないのでしょうか。『火垂るの墓』は太平洋戦争の空襲で焼け出された14歳と4歳の兄妹が飢えと孤独との闘いの中で、二人きりで生きたはかない時を描いた映画です。子ども向けのアニメにもかかわらず、戦争が人間の本質をいかに暴き、平穏な生活をいかに奪い、狂わせるかということ容赦なく描いています。このため、たくさんの辛いシーンがあり、妹の節子のあどけない姿とその先に起こる兄妹の悲惨な最期を涙なしには観ることができません。

『火垂るの墓』を一度観ると、その重苦しさからもう二度と観たくないと思う方もいるかもしれませんが、戦争の映画だからと最初から避けて観ない方もいるかもしれませんが、けれども、この映画はアニメの限界を超えて、戦争の核心を見事に突き、私たちの未来への警告として、今も重要なメッセージを送り続けています。高畑監督の死後、この作品への評価は今後、ますます高まるのではないかと予見します。戦争の過ちが二度と繰り返されることのないように、この映画をまだ観たことのない方にはぜひ一度観ることをお勧めします。またアニメ・ファンにとっても高畑監督の芸術性に優れた映像技術はもちろんのこと、アニメの表現の奥深さを知る上で必見の価値があります。

ところで『火垂るの墓』の映画は野坂昭如の同名の小説が原作です。野坂昭如は童謡『おもちゃのチャチャチャ』の作詞家でも知られる人ですが、小説『火垂るの墓』は彼の少年時代の神戸での空襲経験がもとになっています。すなわち主人公の清太は野坂自身がモデルです。その野坂も2015年に亡くなりましたが、彼の原点はやはり戦争体験にあり、戦争による飢えの苦しみや栄養失調で死んでいった彼の妹への無念さが『火垂るの墓』を書くことにつながったと言われます。野坂はまた戦争体験から農業を通して、食べ物の大切さをも訴え続けてきた人でした。彼の死後に編纂されたエッセイ集『農を棄てたこの国に明日はない』を読むと、戦争だけでなく、現代のフードロスの問題について深く考えさせられ、お米一粒のありがたみを感じます。学生の皆さんには小説『火垂るの墓』を始め、野坂昭如の著作もぜひとも読んでいただき、人が生きることに関わるさまざまな問題についてしっかりと考えていただければと思います。

『火垂るの墓』のDVDは十条台キャンパスの図書館で鑑賞することができます。また原作の小説は同じく図書館所蔵の『野坂昭如・五木寛之・井上ひさし集』（ちくま現代文学大系92）で読むことができます。野坂昭如著『農を棄てたこの国に明日はない』も図書館でぜひ手に取ってみてください。

【長野 麻子 准教授】

ジブリの世界に見る、コンテンツブランドの役割

経営学部 経営学科

アニメーションの歴史は、20世紀初めに遡りますが、当時は一般映画の前座でした。日本では、1963年の『鉄腕アトム』を皮切りに、本格的なテレビ・アニメーションの時代が到来します。そして、2000年代半ばには、世界で放送されるアニメーションの約6割が日本製と言われる程になりました。中でも、スタジオジブリは、世界的に高く評価されるコンテンツブランドです。

そもそも、エンターテインメントの領域では、商品である作品のブランドを構築することが困難です。たとえ有名な映画作品であっても、それを作った映画会社がどこかはほとんど認知されません。例外は、ウォルト・ディズニーです。そして、スタジオジブリも、このコンテンツブランドを構築した稀有な例です。

しかし、スタジオジブリといえども、全ての作品が大成功してきたわけではありません。初めて興行的成功を治めた作品は『魔女の宅急便』（1989年）です。この成功の礎となったのが、『となりのトトロ』と『火垂るの墓』という前2作品（1988年に同時公開）です。この2作品は、公開当初、興行成績はぱっとしませんでした。作品の評価がとても高く、新規ファン層を開拓しました。この下地があったからこそ、『魔女の宅急便』は成功したのです。そして、『千と千尋の神隠し』（2001年）で日本映画史上最高の興行収入を記録し、確固たるコンテンツブランドを確立したのです。

スタジオジブリの創設者である宮崎駿・高畑勲両監督は、安定収益を得られるテレビ・アニメーションではなく、リスクの大きい劇場用長編アニメーションにこだわりました。それは、「人間の心理描写に深く入り込み、豊かな表現力で人生の喜びや悲しみをありのままに描き出す」という理念を実現するには、予算やスケジュールの制約が大きいテレビ・アニメーションでは不可能だったからです。

コンテンツは実際に自分で体験しないとその評価が困難な「経験財」です。消費者は、作品の批評やクチコミを見て、満足度を予測しますが、賛否両論に分かれることも珍しくなく、予告編を見ても、内容の推測が困難な場合もあります。この点、コンテンツブランドは、品質に対する不安を大きく低減してくれます。

スタジオジブリは、創設者の理念がコンテンツブランドを確立し、商業的成功も実現した、とても稀有な例であり、今後も、世界中のファンの期待に応え続けて行くことでしょう。

【板生 研一 特任准教授】

『となりのトトロ』は、田舎へ引っ越してきたメイ（4歳）とサツキ（10歳）の姉妹が、スワタリやトトロ、ネコバスなどの不思議な生き物たちと出会い、交流を深めていくファンタジー・ストーリーです。自然のみずみずしさや、純朴で真っ直ぐな登場人物、トトロたちの可愛らしさなどの魅力が満載で、今でも世代を超えて愛されています。テレビでもよく放映されているので、観たことがある方も多いのではないのでしょうか。

このトトロは不思議な力を持っていますが、いったい何者でしょう？「おぼけ」「楠木の精霊」「森の主」など諸説ありますが、いずれにせよ大人には見る事ができず、メイとサツキ（と観衆の私たち）だけがその姿を目にすることができます。「子どものときにだけ あなたに訪れる 不思議な出会い（エンディング主題歌『となりのトトロ』歌詞より）」なのです。これは発達心理学の視点から、「空想の友だち」との出会いと捉えることもできます。

空想の友だちは「イマジナリー・コンパニオン」と呼ばれ、研究が行われています※。

子どもの時期によく見られる現象で、海外の調査では3～7歳の子ども半数程度が自分だけの空想の友だちを持っています。思いつきで答えているのではなく、何度聞いてもその友だちの姿形（可愛らしいものもいれば、不気味なものもあります）や行動、性格などに一貫性があったそうです。この空想の友だちは、特定の子ども（他に遊ぶ仲間がいないなど）だけに見られるものではなく、ごくごく普通の子どもたちに広くみられる現象です。

成長するにつれ、私たちは「空想」と「現実」を自由に行き来することができなくなります。空想世界へのパスポートが失効し、空想の友だちも記憶ごと消えてしまうことが多いそうです。高校生を対象にした調査では、ほとんどの人が空想の友だちのことを覚えていませんでした。一方で、小説家50人への調査では約半分の人がこの友だちのことを覚えていました。作家がフィクションを創作する力は、空想の友だちを創り出す力と同じところから来ているそうです。そう考えると、子どもの想像力は何とも豊かですね。

あなたには、空想の友だちはいましたか？覚えていないだけで、かつてトトロのような友だちがいて、一緒に遊んだり、困った時に助けてもらったりしたかもしれません。『となりのトトロ』が多くの人から愛されるのは、そんな子どもの頃の忘れた記憶が刺激されるせいでしょうか。あなたの「空想の友だち」に思いを馳せながら鑑賞してみると、いつもとは違った味わい深さがあるかもしれませんね。

※ 参考図書：哲学する赤ちゃん 2010 アリソン・ゴブニック著 青木 玲訳（亜紀書房）

※ 参考映像：となりのトトロ 1988 宮崎駿監督 スタジオジブリ制作

【江口 めぐみ 准教授】

ジブリ作品の魅力とは？

4月5日、映画監督の高畑勲氏がお亡くなりになりました。高畑氏は、宮崎駿氏と並んで、アニメーション制作会社・スタジオジブリの重鎮として活躍された方です。みなさんの中にも、彼の作品をご覧になった方がいるのではないのでしょうか。

スタジオジブリ作品の魅力としては、ヒロインを助けようと走り回る少年の姿であったり、全身をふるわせて驚進する巨大な怪物であったり、どっしりとした重量感をたたえて飛翔するメカであったり……と、アニメーションならではの「動き」の快感がしばしば挙げられます。でも、ジブリ作品のおもしろさはそれだけではありません。都会のOLが農業を中心とする田舎の暮らしに目覚めていく高畑氏の『おもひでぼろぼろ』（1991年）や、森の神とタタラ場（製鉄所）の人間たちとの対立を描く宮崎氏の『もののけ姫』（1997年）など、多くの作品では自然と人間の関係がテーマとして取り上げられ、われわれの築き上げてきた文明に対する洞察が提示されます。観ていて愉快なだけでなく、深く考えさせられるのがジブリ作品なのです。高畑氏は、そういった世界設定や主題の面で宮崎氏を導いた存在でもありました。ジブリが設立される二十年近く前、高畑氏がはじめて監督した長編映画であり、宮崎氏も参加した『太陽の王子 ホルスの大冒険』（1968年）では、村人が団結して得た火の力で吹雪を操る悪魔を倒す物語が展開され、すでに、人間が文明をいかに用いるかが主題として取り扱われています。

もちろん、こうした作品群は、両監督が文明論や歴史学をきちんと勉強したからこそ作り得たものでもあります。たとえば、上で挙げた『もののけ姫』には、職人や芸能民などに着目して中世という時代を描き出した、網野善彦氏の議論が反映されています。図書館にはいろんな本があり、監督たちが読んだ本を手に取り、どうやってそんな作品を発想できたのかを「外側」から考えることもできます。みなさまもぜひ足をお運びくださいませ。

<手に取ってみよう>

『ジブリの教科書 6 おもひでぼろぼろ』（文春文庫、2014年）

『ジブリの教科書 10 ものけ姫』（文春文庫、2015年）

網野善彦『日本の歴史をよみなおす』（筑摩書房、1991年）

網野善彦『歴史を考えるヒント』（新潮社、2001年）

藤川隆男・後藤敦史編『アニメで読む世界史2』（山川出版社、2015年）

DVD『おもひでぼろぼろ』（『高畑勲監督作品集』に所収）

DVD『もののけ姫』

DVD『太陽の王子 ホルスの大冒険』



【森下 達 助教】

展示のお知らせ

■ 特集展示『“スタジオジブリ”の世界へようこそ』

今号2面～3面の特集記事「図書館から見たジブリの世界」に連動して、記事の中で教員より紹介された資料や、本学図書館所蔵のジブリ関連資料、アニメ研究資料などを集めて展示いたします。もちろん貸出もできます。この夏はジブリの世界に浸ってみませんか？

期 間： 2018年7月23日(月)～9月29日(土)
場 所： 2号館2階 図書館 展示コーナー



資料のリクエストを受け付けています

■ リクエストとは？

図書館では、利用者の皆さんから本の購入希望を受け付ける“リクエスト制度”があります。授業や卒論などの学習に関連した本だけでなく、例えば、小説やエッセイ、旅行ガイドブックなど趣味や教養として読んでみたい本も歓迎します。テレビや雑誌で話題の本が図書館にないと思ったら、是非教えてください。受付から貸出できるようになるまで、約2～4週間かかりますので、読みたい本がありましたら、お早目にリクエストしてください。

■ リクエストをするには？

リクエスト方法は、以下の2通りあります。ご不明な点は図書館カウンターにお問い合わせください。

1. 図書館ホームページの「資料のリクエスト」から申し込みをする。
2. 「リクエストカード」に記入して、図書館内に置いてあるリクエストボックスに投函する。

夏季休業中の図書館利用について

■ 図書の長期貸出について

夏季休業中は、以下のとおり特別長期貸出を実施いたします。

- 実施期間： 2018年7月28日(土)～9月15日(土)
- 返却期限： 2018年9月29日(土)



■ 開館スケジュール *変更される場合があります。HPや掲示板をご確認ください。

9:00～20:00		9:00～14:00		9:00～17:00		休館															
7 月				8 月				9 月													
月	火	水	木	金	土	日		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
						1				1	2	3	4	5						1	2
2	3	4	5	6	7	8		6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15		13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22		20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29		27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
30	31																				